

実践団体情報

記入日	西暦 2023 年 1 月 19 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	静岡県立駿河総合高等学校
代表者名	遠藤 健
プラン全体のタイトル	地域防災コミュニティプロジェクト (LD C P)
電話番号	054-260-6688
メールアドレス	surugasogo-h@edu.pref.shizuoka.jp
実践団体の説明	2013 年に静岡県立静岡南高等学校と静岡市立商業高等学校が統合し、静岡県立駿河総合高等学校として開校。全日制 754 名が在籍している総合学科高校。同じ校舎内に静岡北特別支援学校南の分校があり、共生共育を行っている。
所属メンバー	高校 2 年次生 240 名と教師 16 名 企画運営 総合学科企画課長 遠藤健 2 年次学年主任 高木優子
活動地域	静岡市 (葵区、駿河区、清水区)
活動開始時期・結成時期	2022 年 4 月
過去の活動履歴・受賞歴	2021 年 1 年次生 246 名が「防災と保育」をテーマに、防災を絡めたあそびを考案し近隣のこども園に紹介した。

プラン全体の概要	<p>令和 4 年度 2 年次生総合的な探究の時間 「地域防災コミュニティプロジェクト学習」</p> <p>静岡市・静岡大学・近隣施設と協働して取り組む。</p> <p>目 的 ①地域防災 (静岡市) を学ぶことで地域の困りごとを自分ごととし「愛郷心」を育む。</p> <p>②防災活動を通じて高校生ができることを探究し、「地域貢献」を実際に行う。</p> <p>③防災啓発活動を通じ、様々な「コミュニティの形成、醸成」を推進する。</p> <p>④これからの「社会で必要な力 (非認知能力)」を身につける。</p> <p>内 容 ①総合的な探究の時間 (年間 35 時間週 1 時間)</p> <p>②ガイダンス (4 月下旬)</p> <p>③フィールドワーク (6 月、8 月) ④中間発表</p>
----------	--

	<p>(7、11月) ⑤最終発表(1月下旬) 対 象 駿河総合高校2年次生(240名)</p>
--	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月 5月	3月静岡市職員と打ち合わせ	3月静岡市職員と打ち合わせ、会場設定、資料準備	静岡市危機管理総室講義 ・静岡市の現状把握と状況分析 ・自助、共助、公助について ・ハザードマップ路避難場所
5月	授業担当打ち合わせ 活動分野調査	資料準備	活動分野、施設調査
6月	11 施設と内容調整	マイクロバス手配、施設予約	11 施設現地調査、フィールドワーク
7月	授業担当打ち合わせ	フィールドワークまとめ 企画考察	中間発表 1
8月	自主活動計画	自主活動準備	自主的活動、実践
9月	自主活動振り返り	自主活動振り返り	自主活動まとめ
10月	企画の見直し	企画の再構築	自主活動から企画再構築
11月	授業担当打ち合わせ	成果と仮説	中間発表 2
12月	最終報告準備	最終報告準備	最終報告会（1月30日延期）
1月	最終報告準備	最終報告準備	最終報告会
2月	論文作成	論文作成	論文作成
3月	論文作成	論文作成	論文作成

プラン全体の反省点・課題・感想	<ul style="list-style-type: none"> ・11か所のフィールドワーク先との連絡調整や内容の企画に苦勞した。ねらいを共有し、連携先の多大なるご協力とご尽力のおかげで、有意義な活動になった。 ・60チームが同時進行で活動したため、その把握や伴走が難しかった。静岡大学公式LINEや来校サポートのおかげでチーム個々への適切な支援・助言を得られた。 ・チームによって活動の差が生まれる。（自走するチームと停滞するチーム） ・「本当に効果があるか」検証が必要。（ポスターを貼る・SNSで発信するだけで、社会的インパクトはあるのか） ・効果的な活動にするためには、情報収集・分析、文献調査がもっと必要。 ・生徒が自主的に校外へ出る際のリスク管理。
今後の活動予定	令和5年度以降も2年次生全員（約240名）が、1年間をかけ同様な学習活動、実践を行う。

実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2023 年 1 月 17 日 (2022 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	静岡県立駿河総合高等学校
実践番号	1
タイトル	地域防災コミュニティプロジェクト (LDCCP)
実践担当者のお名前	遠藤 健

実践にかかった金額	30 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2022 年 4 月 日～西暦 2023 年 1 月 30 日
実践の所要時間	1 時間×約 50 日=約 50 時間 (チームによって活動時間が多少異なるため約とする)
実践の運営側で動いた人の人数	約 40 人
防災教育の対象者の属性	幼児/保育園児/幼稚園児・高校生・大学生・外国人留学生・教職員・地域住民・女性・障がい者・高齢者・海外・防災関係者・全ての人々・その他
防災教育の対象者の人数	約 300 人
実践を行った都道府県と市区町村	静岡県 静岡市
実践を行った具体的な場所	登呂地区、有東地区、南部体育館、中部電力、青葉通り、カリタス有東、静岡市危機管理総室
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	静岡市危機管理総室職員、静岡大学教授、ポスター発表パネル、制作物材料

達成目標	高校生が地域離れをしている背景の中、防災を切り口に再度地域のコミュニティに入り込むことで、防災意識を高めるとともに、愛郷心やシティズンシップを育むことを目的とした。	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	実践の前年度末に実践企画書を作成し、協働先に目的と内容、実働計画を説明し同意を得る。まずは、防災関係機関や行政、大学（防災担当者）に出向き、教師自身が必要知識を得ることや計画の見通し、	

	<p>目的達成の可能性を探ることをした。</p> <p>地域の方と協働しながら、「高校生の学び」と「持続可能な社会に向けての貢献」を両立させることを大きな目標としてはっきりとしていたので、教師や生徒、協働先と目的を共有しやすかった。</p> <p>防災は、特に持続していくことが重要なので、イベント式ではなくカリキュラムにすることで、この先も持続していくことができると感じた。担当者の変更や費用など、持続可能な視点を持ちながら取り組むことが大切である。</p>	
得られた成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業を飛び出し、自主的な活動ができたこと。 ・ アクションを起こすことで「自分たちにできることがある」と実感できたこと。 ・ 防災の取り組みを地域に発信できたこと。 ・ 防災を通じて、仲間や地域の人々とのつながりが生まれたこと。 ・ 結果として、防災の知識・技術が身に付いたこと。 ・ 学年全員で取り組んだことで、防災意識をボトムアップできたこと。 ・ 長期的に学習・実践したことや連携先・静岡大学と協働できたことで、地域の繋がりや新たなコミュニティが生まれたこと。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<p>行政、企業、学校、各種施設が win win の関係性を気づくことで持続可能につながると感じた。担当者も作業でやるのではなく、目的や思いの共有をしていくことで、次の担当者に引き継げつと考える。できるのであれば、2名以上の担当者で取り組むことが持続可能性につながる。地域で持続し、若者（次世代）へ継承していくことが大切。</p>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	静岡市役所 危機管理総室
関係者の説明	市防災関係者
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	静岡大学 藤井ゼミ
関係者の説明	教授とゼミ生
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	静岡市国際交流協会 静岡大学国際連携推進機構
関係者の説明	国際関係期間
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	駿河区有明地区 自治会長
関係者の説明	自治会
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	駿河区登呂地区 自治会長
関係者の説明	自治会
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	駿河区消防署
関係者の説明	静岡市消防局
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	株式会社 中部電力パワーグリッド
関係者の説明	電力会社（企業）
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	静岡市女性会館
関係者の説明	ジェンダー
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	カリタス有東
関係者の説明	高齢者施設
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	子育て支援センターよしよし
関係者の説明	子ども施設
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	野外保育ゆたか
関係者の説明	子ども施設
関係者の連絡先	

関係者の名前・団体名	静岡ムスリム協会
関係者の説明	多文化
関係者の連絡先	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	園児、小中学生、地域住民
伝えたい内容	この実践の最中、2022年9月23日に実際に大雨による土砂崩れや断水等の被害にあった。そこで、早速行動に移した生徒がいた。生徒の動きを見ていると、日常での人のつながりこそが、災害時に役立つと痛感した。まずは今後、様々な取り組みやコミュニティに積極的に参加、行動してほしい。